

「第2回防火対象物の安全避難に関する有識者会議」における
主な意見について

令和6年10月21日

神戸市消防局予防部査察課

第2回 防火対象物の安全避難に関する有識者会議 主な意見

主な意見

1 一時避難場所を設置した水平避難

・各階に直通階段と接続する一時避難場所を設置
 ・避難者の避難安全性の担保及び火煙の影響が一時避難場所に及ぶことを阻止するため、出火室と一時避難場所の間に安全区画を設定
 ・火災発生時、非出火区画内に設置された一時避難場所に安全区画を経由して水平避難

【概念図】

2 平面を大きく複数に防火区画した水平避難

・各階を大きく複数に防火区画
 ・火災発生時、非出火区画に水平避難
 ・各居室と廊下につながる開口部は常時閉鎖又は感知器連動の扉とし、廊下部分が安全区画を安全区画として設定
 ・第2次安全区画で待機を想定

【概念図】

3 籠城区画

・火災発生時、延焼の恐れが少ない居室中等で待機するための区画
 ・各居室（就寝の用に供するものに限り。）を延焼するおそれが少ない構造で区画することにより、各居室で待機

区画の方法	
壁・床の構造	防火設備の種別
耐火構造	特定防火設備※
※遮煙性能を有し、かつ、常時閉鎖又は煙が発生した場合に閉鎖するもの	

スプリンクラー設備の効果について

- ・病院や福祉施設は、スプリンクラー設備のみに頼ることは危険であり、スプリンクラー設備を踏まえた避難誘導のシナリオを考えることが重要
- ・火災事例2は、スプリンクラー設備による火災の延焼抑制と煙から守られた談話室という一時避難場所があったことにより、少ない人数で30名以上を避難誘導することができた
- ・スプリンクラー設備が作動しても何らかの対応が必要な場合があり、福祉施設、病院、ホテルそれぞれにおける対策について考える必要がある

防火区画等による水平避難や籠城区画の検討について

■ 総論

- ・屋外階段の水平部分の面積を十分に設けたり、屋内階段に附室を設けることで一時避難場所を確保することが効果的である
- ・水平区画や附室がない病院が日本の病院の平均値であり、スプリンクラー設備が設置され、水平区画もあればかなり効果的である
- ・最近の病院は、ナースステーションや談話室が開放され可燃物も多いことが懸念点であり、避難上及び煙拡大リスクを下げる方策があれば、細かい規制については調整の余地があるのではないか
- ・6項口は、自力避難できない利用者がほとんどで、避難させることも難しい方が多々おり、扉を閉めて待機するが、最後の手段としてバルコニーに避難する、という考え方があるのではないか
- ・ホテル・旅館は、自力避難ができることを前提としたとき、福祉施設や病院、有床診療所とは切り離して考えるべき
- ・病院と福祉施設も必ずしも同じではなく、避難能力の点でも違いがあるので、このことも踏まえて検討してはどうか
- ・これらの方策は、バルコニーの代替として効果的であるが、スプリンクラー設備の設置が前提である

■ 水平避難について

- ・廊下に設ける防火戸について両側に開くことを求めるとすると、常開で壁に収納されたものを考えた時、法令で必要な廊下の幅を考慮すると設置が難しい場合があるのではないか
- ・防火区画について、一つの診療科でベッド数が最大でいたい50くらいとして、その半分以上が防火区画を通過すると想定すると、避難時間上は支障がないようにできる
- ・避難方向にある誘導灯だけが点灯するべきで、反対側の誘導灯が点灯すると避難者が混乱してしまう可能性があるが、病院職員等の日頃の訓練で解決されるのではないかと

■ 各居室の仕様について

- ・病院や福祉施設の居室の扉は、使い勝手を考慮し吊り戸の引き戸が普通なので、常閉や遮煙性能を有することは難しいのではないかと
- ・各居室に排煙を設置することについて、各居室で火災が発生した場合、当該居室内で排煙を作動しなければならない
- ・垂れ壁などで煙の流出を防ぐということについて、煙の流出を遅らせることしかできないため、煙の侵入を防ぐには扉を閉める必要がある
- ・病院で各居室の扉について煙感知器連動で閉鎖する手法や排煙操作を階段近くでできるようにしている設計がときどきある

■ 籠城区画について

- ・P SやE P Sなどの区画形成が確認できるのか疑問である
- ・手術室など避難ができない部屋に適用することは効果的であるが、病室などでは難しい
- ・各部屋ではなく、2、3室をまとめて区画したり、集中治療室や手術室など特定の室のみに適用することはできるかもしれない
- ・籠城区画などで避難しないという手法を取り入れたとしても、火災が拡大した時には切り替えて避難する判断ができるかどうか疑問であり、そこまで考える必要がある